労働金庫連合会

変化が激しい金融情勢への対応強化へ ALM・リスク管理の新システムを構築

実績豊富なパッケージ持つNSSOL起用で短期構築

労働金庫連合会
経営管理部
次長
高坂 文人氏

労働金庫連合会
経営管理部
部長代理
武田 宗徳氏

労働金庫連合会
所在地：東京都千代田区神田駿河台2-5-15
設立：1955年
出資金：1200億円（2009年3月31日現在）
経常収益：776億円（2009年3月期）
常勤役職員数：455人（2009年3月31日現在）

■要件
変化が激しく複雑化する金融商品のリスクを一段と高い精度で分析する。資産・負債を総合管理するALMを高度化するとともに、仕組債・市場・信用の各分野におけるリスクをきめ細かく管理する。

■ソリューション
実績のあるALMパッケージと複数のリスク管理パッケージを組み合わせ、ALM・リスク管理の統合システムを構築する。複数のパッケージをサポートし、金融市場に強いITパートナーを起用し、1年弱と短期間で導入する。

■成果
品質の高いシステムが計画通りに稼働。データ連携によって運用負荷の大きな業務を削減しながら、日次ベースのリスク管理が実現した。性能向上で、より多彩なシミュレーションも可能になっている。

きめ細かなリスク管理の実現へ 新情報システムの構築を検討

全国に13ある労働金庫（ろうきん）の中央金融機関としての役割と機能を担う労働金庫連合会。2009年3月31日の時点で同連合会が運用する資金は、会員である各地方の労働金庫による預金を中心に4兆6169億円に及ぶ。

労働金庫連合会の特に重要な役割が、資金の効率的な運用である。安定的かつ高い金利で運用すべく、各種金融商品を活用している。

しかし、近年の金融情勢は変化が激しい。同連合会は従来、ALM（資産・負債の総合管理）システムでリスク管理までカバーしていたが、収益向上へ一層きめ細かな管理を必要としていた。

新システムの構築を計画したのは2007年の秋ごろ。ALMとリスク管理の各業務にそれぞれ課題があった。

ALMを担当する経営管理部 部長代理の武田宗徳氏は、「将来の資産・負債に関するシミュレーションを一層頻繁に行う必要がありました。しかし、以前のシステムでは能力が不足しており、リプレースが必要でした」と振り返る。

リスク管理を担当する経営管理部次長の高坂文人氏は「仕組債のように複雑な金融商品を扱うようになり、それに対応したきめ細かい管理システムを求めていました」と語る。

仕組債は、オプションやスワップなどのデリバティブを組み込んだ複合債券である。通常の債券とキャッシュフローが異なり、リスク管理にも独自の考え方が必要になる。

新システムではALMとリスク管理を総合的に担うとともに、次のような要件を重視した。①ALMに基づく月次ベースの分析を改め、日次ベースのさらに緻密なリスク管理を行う、②仕組債・市場・信用といった各分野のリスクを個別に分析するとともに、ALMとのデータ連携によって業務を効率化する、③ALMではシミュレーション機能を充実させ、幅広いリスクをより正確に予測可能にする――などだ。以上の要件を備える新システムは2009年度から稼働させる計画だった。

それから労働金庫連合会は、新システムについて、取引のあるITベンダー数社から提案を募る。そして、その中から選択したのが、新日鉄ソリューションズの提案したALM・リスク管理システムだった。

同社の提案では、四つパッケージを組み合わせて管理高度化を総合的に実現する。各パッケージは単独で十分な機能を備えるほか、連携することで運用効率を高めていた。しかも、新日鉄ソリューションズは自社製品を豊富に持ち、全パッケージを1社でサポート可能だった。

金融システム開発の実績が豊富で 複数パッケージを持つNSSOLを起用

中心となる製品は、金融機関向けALMソリューションの「BancWare ALM5」である。既に国内外数十社への導入実績があった。

武田氏は「デモで操作性や機能を確認しましたが、非常に操作しやすいものでした。必要に応じて、設定をかなり細かく変えることもできます」と評価する。

リスク管理では、仕組債について「SCUTUM」を、市場リスクについては「MarketQuants」を、信用リスクについては「CreditQuants」を使う。これらは新日鉄ソリューションズが開発した製品である。

高坂氏は「いずれも国内で複数の導入実績があった上、新日鉄ソリューションズが豊富な業務知見／運用実績を持つ点が魅力でした」と語る。

システム構築が始まったのは2008年5月のことである。連休明けには本格的に検討を開始し、週4回に及ぶミーティングを繰り返すなど急ピッチでプロジェクトを進めた。

進捗管理には気を遣ったが、新日鉄ソリューションズは効率的にサポートしたという。

高坂氏は「打ち合わせの際に出した質問に対して、実務知識をもとにした的確な返事が戻ってきました。また、過去の事例をもとにした豊富な提案をいただいています」と語る。

新日鉄ソリューションズは、パッケージに対する追加機能の開発も柔軟に行った。ALMで有価証券用の専用帳票を作る、CreditQuantsで時価モード（MTM）方式に加えて、デフォルトモード方式での分析機能を搭載する――などがある。

1年弱での構築にもかかわらず 品質や速度について高い満足度

こうしてALM・リスク管理システムは、2009年3月からのパイロット稼働を経て、同年4月から計画通り本格稼働を始めている。

新システムの品質や性能に関する評価は高い。

武田氏は「大きな障害もなく、期待通りの使い勝手です。経営環境の変化に伴い、シミュレーション回数を増やしていますが、問題なく対応できました。処理時間は、以前に比べて3分の1から5分の1になっていると感じます」と語る。

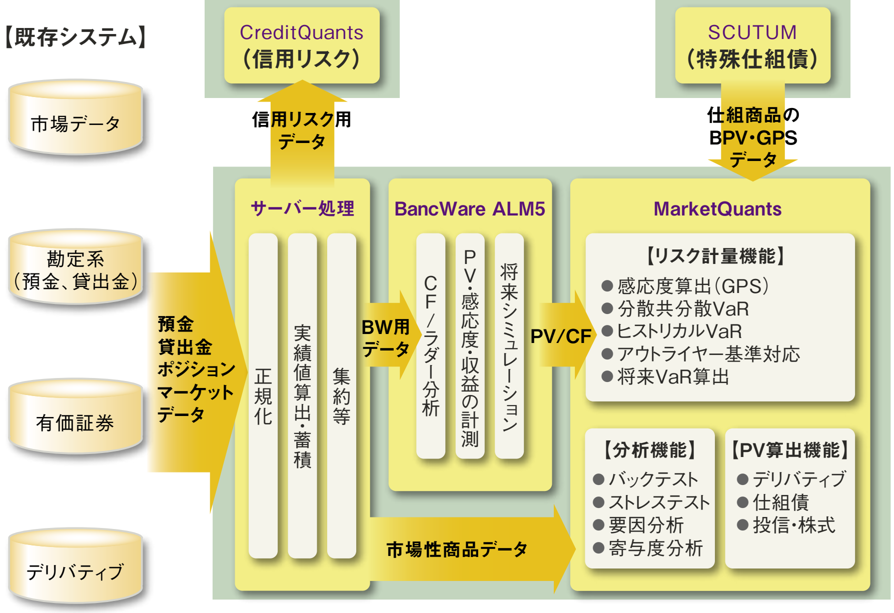
高坂氏は「日次／月次／将来と、三つの独立したリスク管理の処理が計画通り動いています。ALMとデータ連携を行うため、計算実行までの待ち時間もほとんどありません。加えて、CreditQuantsでは計算回数として当初想定していた1万回をはるかに超える100万回に対応するなど、期待以上のシステムになっています」と語る。

今後、労働金庫連合会は、経営環境の変化に備えて、システムにさらなる拡張を加える予定である。

■コアテクノロジー
金融リスクに関する深い業務知見、業務知見を入れたパッケージ

■システム概要
●サーバー：13台（DBサーバー×2、バッチ処理サーバー×1、計算サーバー×7、ターミナル・サーバー×2、CreditQuantsサーバー×1）
●クライアント：3台
●アプリケーション：BancWare ALM5、MarketQuants、CreditQuants、SCUTUM

■労働金庫連合会が導入したALM・リスク管理システムの概要



ALM：資産・負債の総合管理　BPV：ベーシスポイントバリュー　CF：キャッシュフロー　GPS：グリッドポイントセンシティビティ
PV：現在価値　VaR：バリューアットリスク